

ちょっと気になるデータ

増える要介護者と介護する人の離職

内閣府が発表した平成27年版高齢社会白書によれば、平成26年10月1日現在の総人口は1億2,708万人で減少傾向にある一方で、65歳以上の高齢者人口は過去最高の3,300万人で増加傾向、高齢化率は26.0%（前年25.1%）に達し、過去最高の値を記録している。また、介護を必要とする高齢者も増加傾向にある。そうした中で、家族を介護するために離職せざるを得ない労働者の増加が懸念されている。以下では、要介護者の増加傾向と介護者や介護離職者の現状について紹介する。

◆要介護者数の増加の傾向

前出の白書によると、要介護者等（介護保険法の適用により要介護者又は要支援者と認定された人）の数は、平成24年に総数が5,457千人で増加傾向にある。特に、要介護者は、日常生活を送るために介護が必要な程度に応じて5段階認定基準に分けられるが、各基準段階ともに毎年大幅な人数の増加を示している（図1）。

◆介護する人の属性とその傾向

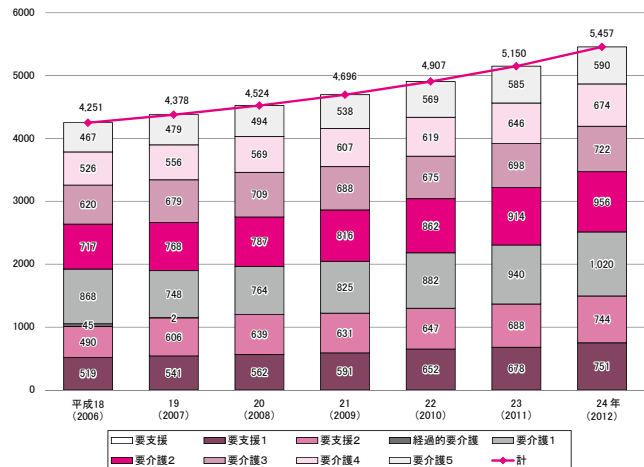
平成24年就業構造基本調査によると家族の介護を行っている人（有業者と無業者を含む）は、男性よりも女性が多い。また、年齢別にみると、男女ともに60歳から64歳が最も人数が多く、ついで55歳から59歳が多い。特に、女性の場合は、40歳代からすでに家族の介護を行っている人が多い。また、65歳未満の場合、男女ともに仕事をしながら家族の介護を行っている人が多い（図2）。

◆介護離職の現状

平成24年度就業構造基本調査によると、介護・看護を理由に離職した人（以下では介護離職者）の総数は1年間で10.1万人であった。男女比では、過去5年間に介護離職した人の割合をみると、介護離職者全体に対する女性の割合が8割前後を占めている。家計の主な担い手である場合の多い男性より、家計補助的にパートなどに就いている女性が介護のために離職しているということであろうか。しかし、近年の傾向として、男性の離職者の数が増加傾向にあることも見逃せない（図3）。

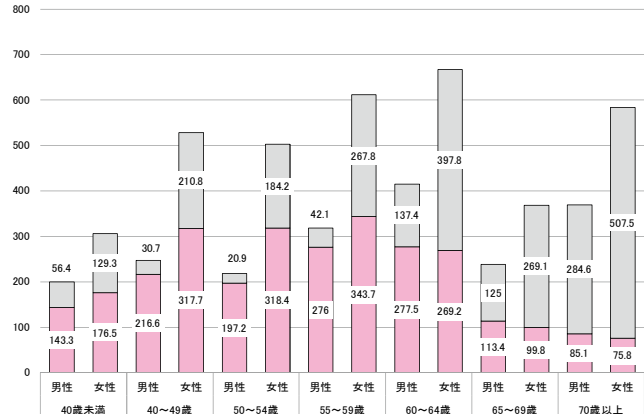
（調査解析部主任調査員 野村かすみ）

図1 65歳以上の要介護度別認定者数の推移（単位：千人）



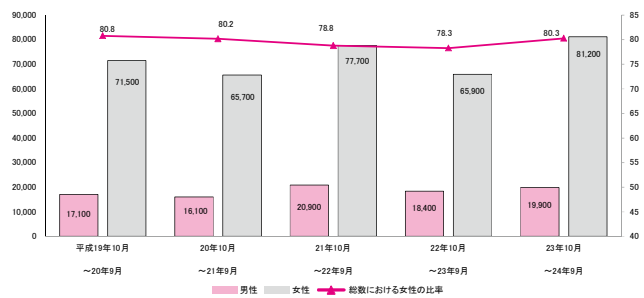
資料出所：内閣府「平成27年版高齢社会白書」より一部加工

図2 15歳以上で介護をしている男女の人数と割合（単位：千人）



資料出所：総務省「就業構造基本調査（平成24年）」から作成。

図3 男女別介護離職者数と女性の介護離職の割合（単位：左軸は人数、右軸は%）



資料出所：総務省「就業構造基本調査（平成24年）」から作成